

七条中学校だより10月1号

京都市立七条中学校

令和8年10月1日

発行:校長 林 秀雄

折返の節目に、自分の現在地を確かめよう

今日、10月1日は、4月に新しい学年が始まってちょうど半年となる日です。そして同時に、今年度の後半の半年がスタートする日でもあります。

1年生の皆さんは、中学校に入学して半年が過ぎました。中学校生活には慣れましたか。入学した頃に抱いていた目標や夢に向かって、一步步成長できているでしょうか。

2年生の皆さんは、中学校生活の折り返し地点を迎えました。先輩としての自覚が芽生え始める一方で、来年度には七条中学校の最高学年となります。今の自分は、1年前に思い描いていた姿に近づいているでしょうか。

そして3年生の皆さんは、卒業式まで残り6か月をすでに切っています。中学校生活は思っている以上に短いものです。入学した頃に憧れていた先輩の姿や、「こんな自分になりたい」と思い描いていた姿に近づくことができているでしょうか。

この半年を振り返るとき、多くの人が「できたこと」もあれば、「まだ十分ではなかったこと」もあると思います。しかし大切なのは、今の自分の現在地を知ることです。目的地へ向かうときも、まずは自分がどこにいるのかが分からなければ進むべき方向も見えてきません。

今の自分はどこにいるのか。目指していた自分に近づけているのか。このまま進んでよいのか。それとも何かを変える必要があるのか。ぜひ、この半年の節目に立ち止まって考えてみてください。

さて、そんな皆さんの前には、七中祭があります。体育の部、そして合唱の部。本番に向けて、授業や学年練習、色別練習など、毎日準備が進んでいます。

仲間と力を合わせることで、最後までやり抜くこと、自分の役割に責任をもつこと。七中祭には、皆さんを大きく成長させる機会がたくさんあります。だからこそ、まずは七中祭に全力で取り組んでほしいと思います。一生懸命に挑戦した経験は、必ず自分自身の財産になります。そして七中祭が終わったとき、もう一度自分自身を振り返ってみてください。「あの時より成長できたかな。」「次は何を目標にしようかな。」「これからどんな自分を目指そうかな。」そんなことを考えながら、一人一人が後半の半年を充実したものにしてくれることを期待しています。

半年後、「この一年、自分は成長できた」と胸を張って言えるよう、今日という節目を新たなスタートの日にしていきましょう。

特に3年生の皆さんには、校長先生から要望があります。

皆さんにとって今年の七中祭は、中学校生活最後の七中祭です。体育の部も合唱の部も、仲間とともに本気で取り組むことができるのは、もう今回しかありません。ぜひ結果だけではなく、その過程も含めて全力で挑戦してほしいと思います。

私はこれまで学校だよりを通して、「結果よりも過程が大切である」ということを何度も皆さんに伝えてきました。もちろん優勝すること、最優秀賞を獲得することは素晴らしいことです。しかし、本当に価値があるのは、その結果に至るまでの歩みです。●仲間と意見を出し合ったこと。●うまくいかない時にも工夫を重ねたこと。●苦しい時にも互いに励まし合ったこと。●自分にできることを考え、最後までやり抜いたこと。そうした一つ一つの積み重ねこそが、皆さんを成長させるのです。

七中祭は、七条中学校の教育目標である「自律・探究・貢献」を実践する絶好の機会です。●自ら考え、自ら行動する「自律」。●より良い方法を仲間とともに考え、挑戦し続ける「探究」。●自分のためだけでなく、学級や学年、学校のために力を尽くす「貢献」。この三つの姿が、七中祭の取組の中に表れてほしいと思います。

そして、皆さんが日頃から取り組んでいる「人・学・和」です。●人を大切にすること。●学び続けること。●仲間と協力し、より良い集団をつくること。七中祭は、まさに「人・学・和」を実際の姿として示す場でもあるのです。皆さんが仲間と協力し、悩みながらもより良いものを目指して努力する姿、最後まであきらめずにやり抜く姿は、必ず後輩たちの目に焼き付くことでしょう。

皆さんが1年生だった頃、2年生だった頃にも、きっと「あんな先輩になりたい」と思える3年生の姿があったはず。七条中学校の伝統は、行事そのものではありません。●本気で挑戦する姿。●仲間を思いやる心。●最後までやり抜く強い意志。これらは先輩たちの姿によって受け継がれてきました。今度は皆さんが、その伝統を次の世代へつなぐ番です。

私は、七条中学校の最高学年として学校を引っ張る皆さんの姿を期待しています。本番ではありません。本番までの毎日の取組、仲間との関わり、学級や学年のために流す汗、そのすべてに全力を尽くす姿を期待しています。皆さんが思っている以上に、後輩たちは皆さんの背中を見ています。皆さんの姿は、来年の後輩たちの目標になります。そして、その姿勢は再来年の七条中学校の伝統となっていきます。

卒業まで残された時間は決して長くありません。しかし、その限られた時間だからこそ、一日一日がかけがえないものです。勝ったか負けたかだけではなく、「自分たちは本気で取り組んだ」「仲間とともに最後までやり切った」「後輩たちに七中生としてのあるべき姿を示すことができた」と胸を張って言える七中祭にしてほしいと思います。

君たちが創る七中祭が、来年の後輩たちの目標となり、再来年の伝統となる。そして、自律・探究・貢献の姿を後輩たちに示し、「人・学・和」を体現する最高学年としての姿が、七条中学校の新たな歴史となる。そんな七中祭になることを、私は心から期待しています。

七条中学校の歩み 地域とともに築いてきた歴史

間もなく、七条中学校は 70 周年の節目を迎えます。この機会に、私たちが学ぶ七条中学校と地域の学校の歴史を振り返ってみましょう。

七条中学校は、昭和 30 年（1955 年）に洛南中（当時の洛南中学校は現在の鳥羽高校にありました）校内の「七条分教室」としてスタートしました。当時、この地域では人口が増加し、生徒数も急増していたため、新しい中学校の設置が求められていました。そして昭和 32 年（1957 年）、現在の場所に京都市立七条中学校として独立開校し、新たな歴史を歩み始めました。

本校区の小学校にも長い歴史があります。明治 5 年（1872 年）に創立された七条小学校をはじめ、昭和 8 年（1933 年）には七条小学校から分かれて七条第二小学校（現在の唐橋小学校・昭和 23 年より八条中へ）が開校しました。また、昭和 12 年（1937 年）には七条第三小学校が開校し、さらに昭和 33 年（1958 年）には七条小学校西大路分校が設置され、昭和 42 年（1967 年）に独立して現在の西大路小学校となりました。このような地域の学校の歴史と発展を背景に誕生した七条中学校は、開校当初から大規模校として知られていました。独立開校時の生徒数は 1,285 名でしたが、その後も地域の発展とともに増加し、昭和 40 年代には 1,600 名を超える生徒が在籍する京都市内有数の大規模校となりました。教室や特別教室、体育施設の増築も行われ、多くの生徒たちがこの学校で学びました。しかし、その後は少子化の影響などにより生徒数は減少し、一時は 400 名を下回る時期もありました。ところが近年は、地域のマンション建設や住宅開発などに伴う人口構成の変化により、再び生徒数は増加傾向にあります。現在、本校には 449 名の生徒が在籍し、活気ある学校生活が展開されています。

皆さんが毎日学んでいる現在の校舎は、老朽化した校舎の全面改築によって建設されたものです。平成 9 年（1997 年）から改築工事が始まり、平成 11 年（1999 年）に現在の校舎が完成しました。それから四半世紀以上にわたり、多くの卒業生を送り出しながら、七条中学校の歴史を見守り続けています。

七条中学校の歴史は約 70 年ですが、その土台には七条小学校、唐橋小学校、七条第三小学校、西大路小学校など、地域の学校が築いてきた 150 年以上にわたる教育の歴史があります。そして、その歴史をつくってきたのは、先輩方、保護者や地域の皆さん、そして教職員です。

周年行事は、過去を振り返るだけでなく、未来への新たなスタートでもあります。七条中学校の歴史は、今この瞬間も続いています。生徒一人ひとりが、その歴史を受け継ぎ、新たな 1 ページを刻む主人公です。先輩方が築いてくださった伝統に感謝しながら、これからの七条中学校の未来をともに創っていきましょう。

諸費及び積立金について

10 月分の振替は、10 月 26 日（月）に銀行引き落としになります。口座へのご入金をお願い致します。

1 年	7942 円
2 年	7450 円
3 年	600 円

※育成学級については個々によって異なるため、既に配布した内容をご確認ください。